

2024年4月11日

## シーメンスヘルスケア、AIにより画像診断と検査フローの効率化に貢献する超音波画像診断装置「ACUSON Origin」を発売

シーメンスヘルスケア株式会社（本社：東京都品川区）は、人工知能（Artificial Intelligence）による画像診断と検査フローの効率化により心臓の超音波検査（心エコー検査）の精度向上と効率化に貢献する超音波画像診断装置「ACUSON Origin」（アキュソン・オリジン）を4月15日より発売する。

心エコー検査はリアルタイムに心臓の血流・心筋の動き・弁の状態などを確認できる非侵襲的な検査で、心臓の構造的な異常・疾患の検出や治療方法や治療方針の決定に広く役立てられている。一方で、心血管疾患患者の数は世界中で急速に増加し各疾患に合わせた検査・治療も多様化している。たとえば、心不全は2012年から2030年にかけて46%増加すると予想されている。また、構造的な心疾患（SHD）に対するカテーテル治療は新しい治療法やデバイスにより今後年平均9.15%で成長すると予測されている。

同社では、企業全体でテクノロジーベースのイノベーションを推進しており30年以上にわたって機械学習、深層学習、人工知能の分野をリードしAIとデジタルイノベーションの研究開発を進めている。臨床医および超音波技師を含む医療従事者の深刻な不足が続く中で、高度で幅広い検査に対応するため、AIによる画像診断と検査フローの効率化により検査の精度向上と効率化に貢献する「ACUSON Origin」を開発した。

画像診断支援AIの学習情報としては世界最大レベルの約20億枚の心臓の検査画像を学習したAIにより、心不全、構造的な心疾患、冠動脈疾患（CAD）、不整脈などに関する5,600項目以上の計測の自動化が可能となり、診断精度の向上や診断の質の均一化に大きく貢献するとしている。